

TEGOネットだより浜田

「てご」とは、方言で「手伝う（支援する）」という意味です。

平成26年6月9日 第85号
浜田市農林業支援センター

はじめに

6月に入り大雨による災害の発生しやすい梅雨時期を迎えました。昨年はゲリラ的集中豪雨等により管内はもとより全国各地で大きな被害を受けましたが、梅雨明け後の夏期に必要な農業用の水を蓄える重要な時期でもあります。4日に梅雨入りはしましたが、災害のない梅雨時期であってほしいものです。

(浜田市農林業支援センター長 大谷 十三一)

1. 各支援チームからの話題

★ 新規就農者支援チーム (担当: 田原・中田)

「狩人塾」とふるさと農業研修生

「狩人塾」とは、弥栄町で「田舎カフェ&キッチン 陽気な狩人」を運営する今田孝志さんが主催する、狩猟を身近に感じてもらうというイベントです。5月24日に今年第3回目の狩人塾が開催され、弥栄町のふるさと研修生等3名と一緒に参加しました。

座学では今田さんと若干狩猟者を講師として、質疑応答形式で狩猟の楽しさや難しさが伝えられ、座学の後には実際にイノシシの皮をはぎ解体する作業をさせていただき、研修生たちも積極的に参加しました。今田さんが各部位をバラ、モモ、フィレ、スペアリブといった具合に解説してくださり、解体が進むにつれて「肉に見えてきた」などの歓声が上がりました。

作業後は、解体したイノシシの焼肉をご馳走になり、味覚の面でも狩猟への興味が深まりました。研修生にとっても、将来就農を検討する際には鳥獣被害対策は避けて通れない問題であり、今回のイベントは貴重な体験になったことと思います。本イベントは定期的開催されますので、興味のある方はお問い合わせください。



● 認定農業者支援チーム (担当: 中田・田原)

乾椎茸品評会が開催されました



5月15日、今年で12回目となるJAいわみ中央乾椎茸品評会が行われ、旭町の認定農業者である、岩地正男さん、森井和朝さんが出品をされました。

当日は、参加者の皆様が手塩にかけた逸品である、箱物の部・普通物の部合わせて30点の良質な乾椎茸が多数出品され、両部において、岩地さんが最優秀賞、森井さんが優秀賞を、それぞれ受賞されました。さらに、今回出品された普通物は、5月30日に松江市で行われました第8回島根県乾椎茸品評会に出品され、岩地さんが見事に島根県知事賞を受賞された他、8名の浜田市生産者の皆さんが各賞を受賞されました。

椎茸栽培においては、管理の難しさや、手間等の課題により、近年、生産者は減少傾向にあります。県内の中でも浜田圏域の椎茸は、とても高い評価を得ています。昨年度、浜田市では、県西部で初の人工ほだ場が完成しました。今後も高品質な椎茸生産に期待し、当支援センターも応援していきます。

■ 集落営農組織支援チーム (担当: 河野・山本)

集落ビジョン実践塾が開催されます

この度、今年度第1回目の集落ビジョン実践塾が7月14日(月)に出雲市で開催されます。

集落ビジョンとは、地域の農地・暮らし・環境などについての総合的な将来図を描いて地域活性化の柱にしようというもので、島根県が作成を推進しています。すでに県内のいくつかの集落で集落ビジョンを作成し、地域活性化活動につなげています。集落ビジョン実践塾はビジョン作成と実践に向けた手法を講習するもので、今回は事例報告と講演が行われます。

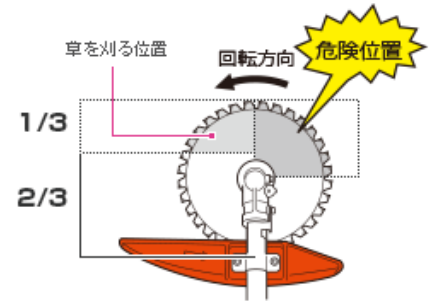
集落ビジョン作成に興味をお持ちの方で、実践塾への参加を希望される方は6月27日(金)までに当支援センターまでご連絡ください。

2. 刈払機を使った草刈り作業について

刈払機による事故は、その普及と共に年々増加傾向にあります。指の切断や角膜損傷などの思わぬ事故につながる場合があります。

事故を防ぐために下記の点に注意して作業を行うようにしましょう。

- 1 短時間の作業でも、**長袖・長ズボン・作業靴・保護眼鏡**などの保護具を身につけましょう。また、刈払機の所定の位置に**飛散防止カバー**を取りつけましょう。
- 2 刈払機には、刈刃による**キックバック**（刈払機が樹木などの障害物や地面に接触すると、刈払機ごと刈る方向とは逆の方向に強く跳ね返させる現象）や飛散物など機械特有の危険があります。今一度、取扱説明書をよく読み、使用方法や危険性を十分理解してから使用してください。



3. 環境保全型農業直接支払交付金について（エコファーマーの皆様へ）

環境保全型農業直接支払交付金の申請書の提出期限は**6月30日（月）**となっています。申請予定の方は、浜田市農林振興課・各支所産業課・浜田市農林業支援センター窓口へご提出ください。また、ご不明な点につきましても同窓口にお問い合わせください。

4. 平成26年度第1回・第2回西条柿栽培講座

西条柿の後継者確保と産地強化を目的として毎年開講している西条柿栽培講座が、5月14日、6月3日に実施されました。

本講座は西条柿栽培の基本的な知識・技術の習得を主な内容としており、今年度は西部農林振興センター浜田農業普及部の神城課長が講師を務められます。

第1回は摘蕾の講習・実習が行われ、蕾が小さいうちに作業を行うことで素手でスムーズに摘蕾をすることができ、適期作業が大事であることが良くわかりました。また第2回は丁寧に育てた柿に大きな被害をもたらす病害虫対策についての講習が行われ、数々の質問が飛び交う有意義な講習になりました。



5. 今年の絵柄は？田んぼアート始まりました

6月1日、金城町小国の藤若将浩さんの圃場で、今年も数種類の水稻を駆使した田んぼアートづくりが始まりました。

藤若さんは地域の皆さんと協力して毎年このイベントを企画しておられ、今回は田植え体験や田植機の試乗が実施されました。今年も地域内外から多くの方々が参加され、何人かの子供たちは自分の膝ほどの深さの田に不安そうな様子でしたが、しばらく経つと泥だらけで田植えを楽しんでいました。

今年はどうなアートが観られるのでしょうか？**7月上旬に最もきれいに模様が浮かび上がり**、そこから収穫時期にかけて少しずつ表情が変化していきますので、本紙でも可能な限りその様子をお伝えしていきます。

また今後は**生き物調査・稲刈り・しめ縄づくり**が計画されていますので、イベントに興味をお持ちの方は当支援センターにお問い合わせください。



- 当情報誌は新規就農者、認定農業者、集落営農組織と関係機関の皆様へ配信しています。
- ご意見、掲載要望、または配信停止をご希望される場合は下記までご連絡ください。

■ 発刊元 浜田市農林業支援センター

〒697-0024 島根県浜田市黒川町 3741 (JA いわみ中央本所分館 2 階)

TEL : 0855-22-3500 FAX : 0855-22-3477 E-mail : n-shien@city.hamada.shimane.jp